

# 古代イスラエル王国 イスラ ム的 点 (1/6) : 言者サムエルとサウル王

:

明:イスラエルの民は新 代に突入します。

目:[事比 宗教コダヤ教](#)

より: ア イシャ ステイシ

日4 Jun 2013

集日 23 Jul 2023



バイブルの [史](#)

によると、古代イスラエル王国は代々、国王によって治められてきました。荒野のなかを一定の い期 さまよった末に、イスラエルの民（古代イスラエル人）は 束された土地に入り、二つの王国に分裂します。ダビデ王は二つの王国の 一に成功し、彼の息子ソロモンの 治は黄金 代と呼ばれる平和と繁 をイスラエルの民にもたらしました。多くの 者にとって、イスラ ムの 史にもサウル、ダビデ、ソロモンの列王 を有していることは きの事 かもしれません。ムスリムはダビデとソロモンを 言者として信じているため、彼ら二人をイスラ ムの教えの一部として受け入れ、彼らを敬 することが求められています。以下は、イスラ ム的 点におけるイスラエル王国の[2](#)述す。

言者モ ゼが人々を えてエジプトから脱出したとき、彼は 酷な と挑 に直面しました。エジプト人による数世代に渡る残酷な 制下で、イスラエルの民は 活の 代を待ち望んでいました。彼らの精神は、エジプトに蔓延していた偶像崇 の 践によって となり、心に をもたらしました。神はモ ゼが彼の民を 束の地へと

くよう指示しましたが、彼らはモゼの世代が全し、神の想念に心をたした世代に取ってえられるまで、そこに入るのを阻まれました。ヨシュアはイスラエルの民を東の地へと、人々はしばらくの、良き境のもと、唯一なる神のご悦を得ることに心を集中させていました。

が流れ、イスラエルの民の理は低下し、彼らは言者の害といった多くの罪を犯すようになりました。そのため、神は人々のことなどにもかけないような制的な王に彼らを支配させました。王は人々を蔑み、彼らの血を流し、彼らを近国との争に狩りだしました。果てしなくくいくつもの争の、イスラエルの民は言者モゼとアロンの物や宝の入った箱を持ち出しました。

その箱は「契の箱」または「」として知られ、イスラエルの民はその安置所を置したり、争に持ち出したりしました。彼らにとって、それは大いなる安と勇をもたらしたのです。そして彼らの、の中に特な力が宿っていると考え、恐怖しました。ペリシテ人はその恐怖をり越え、イスラエルの民を打ちかし、を手に入れました。制的な王がの取についての知らせを受けると、彼は倒れ、死にました。イスラエルの民は、神が言者サムエルを彼らに遣わし、同位者、子、娘、者などの存在せぬ唯一なる神への崇へと再びくまで、羊いの失った羊の群れのようにさまよいけました。

## 我らに王を

彼らの失に落胆したイスラエルの民は、自分たちの王を任命してくれるよう、言者サムエルにみましました。彼らは繁と光を取りしてくれるような力い人物を求めましたが、サムエルは彼らの束とにして慎重でした。彼らはそのれた心から、神のためにおうとはしないだろうと彼は危惧したのです。サムエルは明な人物で、彼はイスラエルの民の王にふさわしい者がれることを神に祈りました。神はサウル（タルト）を王としてび、言者サムエルにその敬虔な若者を承するようえました。

サウルは身の、がっしりとした体格の若者で、彼は父と共にでいていました。ある日、一部の口バたちがからはぐれてしまった、サウルと彼の召使いはそれらを探しに出ました。彼らの探索は、言者サムエルの住む街にまで及びました。サウルは明で、彼

の召使いの助言を き入れ、いなくなったロバについて 言者サムエルのもとへ ねに行きました。サムエルはサウルを直ちに将来の王として し、ロバたちが彼の父の元に既に送り返されていること えました。言者サムエルはサウルに し、彼がイスラエルの民の王として神によって ばれたことを告げました。

サウルは きを禁じ得ませんでした。彼は自分がそういった名誉にふさわしくないことを直ちに主 しました。なぜなら彼は、イスラエルの民の大半がそのような 大さからは程 いとみなす、身分の低いベンジャミン族の出身だったからです。言者サムエルは、サウルが王になることは神によって既に定められたことであるため、それは重要なことではないと 明しました。サムエルはイスラエルの民の前にサウルを 介し、こう言いました。

“ にアッラ は、タル ト（サウル）をあなたがたの上に、王として任命された。”（クルア ン2: 247）

イスラエルの民は、直ちに苦情を述べ ねました。彼らは神に し、慈悲と 制からの救出を していたにも わらず、唯一なる神への 情に溢れた敬虔な若者と 言者サムエルの双方に 蔑的な 度を示したのです。彼らはこう言ったのです。

“かれがどうして、わたしたちの王になれようか。わたしたちこそ、かれよりも王に相 しい。またかれは富にも まれていない。”（クルア ン2: 247）

イスラエルの民の心は再度、 なになり、病んだのです。彼らは敬虔さよりも富や地位を望み、神によって ばれた指 者の粗探しをしたのです。サウルには富も地位もありませんでしたが、神は知 と能力によって彼を祝福しました。言者サムエルは彼らとの をみました。彼はこう言ったのです。

“アッラ は、あなたがたの上にかれを び、かれの知 と体力を められた。アッラ は御心に う者に、王 を授けられる。”（クルア ン2: 247）

しかしイスラエルの民は不平を止めず、サウルが本当に彼らの王としてふさわしいかどうか、神の印を求めることも反 したのです。

神はその果てしなき慈悲と英知から、イスラエルの民が要求したしるし（奇 ）を示しました。神は天使たちに、ペリシテ人によって われた を取り すよう命じたのです。神

